



KITE SOCIETY

創立5周年 記念演奏会 3月29日(日)P.M.2～ 長野市民会館

回りの山々のいただきには、まだ雪が残ってはおりますが、やわらかな日

ざしは、春のおとずれを告げております。

私共カイトソサエティが、創立以来5年間、時間的、地理的な困難

を乗り越えて、こうして5回目を記念する演奏会が持てますのも

ひとえに皆様方の暖かい御支援、御後援の賜と深く感謝致し

ております。思えば5年前、会創立のため東奔西走したことが、つい最近の出来事のようにあります。初めての経験であ

った第1回目の演奏会を、無事成し遂げる事ができた時の

喜びは忘れることができません。今回はそんなこれまでの

総まとめのつもりでステージを組んでみました。私共も、第

5回を機会に新たな気持ちをもって活動を続けてまいりたいと

思います。どうか存分に御批判下さいまして、今後共今までに

増して御支援、御後援下さいますよう心からお願い申し上げます。

また今回特に長野高校管弦楽班O・B、長野高校吹奏楽班O・Bの

賛助を得ましたことは、まことに喜びにたえません。ここに毎年賛助

をいただいている長野高校合唱班に対しても、共に厚く御礼申し上げます。

PROLOGUE

PROFILE

指揮者

山本昇先生

カイトがここに第5回の記念演奏会を迎えるに当たり、長野高校合唱班時代においては顧問として、またカイト結成以来合同演奏の指揮を引き受けて下さった先生の御指導を忘れるわけにはいきません。ことに今回は第5回ということで、我々の為に先生がピアノ伴奏である「山に祈る」をオーケストラの伴奏に編曲して下さいました。

さらに合唱の面ばかりでなく、先生御自身合唱班OBの1人、我々カイトの大先輩としていろいろな面で良き相談相手として果された役割は、ある意味でそれ以上であったかも知れません。

松橋 文幸（昭和40年度卒）

現在金沢大学教育学部在学中、同大混声合唱団指揮者

本年度カイト技術責任者として、夏期合宿あるいは東京出張練習にと意欲的に活動し指揮者としての重責を果たす。

宮下荘治郎（昭和41年度卒）

現在信州大学教育学部音楽科在学中、同大男声合唱団コリフェーエ指揮者。

その昔は落語家志望であったとか。高校以来男声合唱に情熱をもやし、その人柄から信頼もあつく、ダイナミックな指揮で見事にリードする。

松本 進（昭和42年度卒）

現在信州大学工学部在学中、大学入学と同時に男声合唱団コリフェーエに入団、中堅的存在として活躍中。

今回彼自身としても初めて指揮をすることになり、その結果が期待されている。

賛助

長野高校管弦楽班O・B

長野高校吹奏楽班O・B

高校時代、音楽祭などにおいて同じ音楽班として活動した。それぞれのO・B会において年1回演奏会を持ち、またそれぞれの分野において活発に活躍されています。

管弦楽班O・B 昭和42年第1回演奏会開催

吹奏楽班O・B 昭和44年第1回演奏会開催

長野高校合唱班

受験勉強とクラブ活動の両立についてとかく論議される今日、若さと合唱に対する情熱とで結ばれた仲間であり、NHKコンクール東北信大会優勝、毎日コンクール東日本大会県代表と、ここ数年安定した実力を示している。

男声合唱の重厚なハーモニーを求め、清水修、多田武彦の曲を得意としているが、今回は藤原三千代の作品を取り上げ、長野高校合唱班の新しい面を追求している。

客演者

平出あい子

長野高校卒業、武蔵野美術大学へ進み現在NHK長野放送局アナウンサー。
第16回金鶏祭において、合唱班「山に祈る」のナレーターを務める。

PROGRAMME

I. 男声合唱組曲「月光とピエロ」

合唱 カイト・ソサエテイ
指揮 宮下莊治郎

月夜
秋のピエロ
ピエロ
ピエロの嘆き
日光とピエロとピエレットの唐草模様

II. 愛唱歌集

合唱 カイト・ソサエテイ
指揮 松本 進

グッドナイト レディス
月の夜
権兵衛が種まく
オーラリー
線路工夫の歌

III. 男声合唱組曲「晩夏」

合唱 長野高校合唱班
指揮 三ツ木辰巳

夕暮れ
雪と膝
冬の夜道
夏草

IV. 男声合唱組曲「富士山」

合唱 カイト・ソサエテイ
指揮 松橋文幸

作品第壱
作品第肆
作品第拾陸
作品第拾捌
作品第貳拾壱

V. 男声合唱組曲「山に祈る」

合唱 カイト・ソサエテイ 長野高校合唱班
指揮 山本 昇
ナレーション 平出あい子 (客演)
オーケストラ 長野高校管弦楽班O・B (賛助)
長野高校吹奏楽班O・B (賛助)

戦後の混乱期のさなかの昭和23年、清水修が堀口大学の詩集「日光とピエロ」から「秋のピエロ」を選んで、全日本合唱コンクール男声合唱部門の課題曲として作曲し、翌年更に4曲を加えて男声合唱組曲として発表されたこの曲は、戦後の本格的合唱曲として最初のものであり、今日の日本の合唱曲の先駆けとなっています。だれもが共通に持っているピエロの一面、人間の哀感をひしひしと歌い、当時の人々の心に深い感銘を与えたといわれます。

堀口大学は大正時代の象徴詩に新しい官能と知性のいぶきを吹き込み、昭和近代派の先駆けをなした。

私達が合唱曲として歌う曲は、今回演奏会の他のステージのようなはじめから合唱曲として作曲されたものばかりではなく、単にメロディーの豊かさを楽しむ曲も多くあります。このステージでは、アメリカ、イギリスの曲から選んでみました。

「権兵衛が種まく」は黒人霊歌のメロディーにゆかいな歌詞をつけたもの、「オーラリー」は過ぎ去った恋を歌ったもの、「線路の仕事」としてよく知られる最後の歌は、黒人が線路工事をしながら歌った唄です。

どれも小曲ばかりですので皆様の御存知の曲もありましょう。口づさみながらお聞き下さい。

学生時代から信濃地方を旅行し、特に戸隠の人と自然を愛した津村信夫は、昭和初期の抒情詩人であります。薄命であった彼の抒情詩には、人生に対する悲劇的な運命観があると申せましょう。それでいて彼の詩が抒情の音楽的陶醉のみみただけでなく、その中に生々しいまでの生意識が目覚めているからだといわれております。そんな彼の詩に作曲家としては異色の存在である女流作家の藤原三千代の作曲によるこの組曲を、若々しい抒情性をもって長野高校合唱班が歌い上げます。どうぞ御声援下さい。

現代詩人の中で、草野心平ほど詩人的要素を持っている詩人はないであろう。彼の詩は複雑である。しかし、そこには様々な人間感情をひきくるめて不思議な美の世界が存在する。見る場所、見る時によって様々な姿に変化する富士の無限の存在をうたった詩集「富士山」の中から5つを選んで多田武彦によって作曲されたこの組曲に、私共はその多田の豊かな日本的抒情性とあいまって、日本人の象徴としての富士、いや日本人の心の故郷としての富士といったようなものを感じております。そんな姿を男声合唱特有のハーモニーの上に描いていただければ幸いです。

山は厳しく、神秘で偉大であります。その山に挑むことは、すばらしく魅力があります。山を征服する時、私達はその自然に溶け込めるのです。しかし、山での遭難、それは自然の人間に対する拒絶でありましょう。そこには死と遺族の悲しみがあります。

昭和34年、遭難防止を呼びかけて、長野県警察本部から出された小冊子「山に祈る」の巻頭に載った上智大山岳部の飯塚揚一君の遭難の手記に清水修が構成、作詞、作曲したこの曲は、母親の朗読を中心に構成されており、山の遭難に対する悲しみと祈りが込められております。

EXPLANATION